令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策		内部評価	外部評価		
基本 施策 1 学校 教育 の 充 実	① 確かな学力を育成します (1) 子どもの夢がかなう学力支援【重点3】 ◎東大10人構想 ◇全国トップクラスの学力の育成 <ul style="list-style-type: none"> 主体的、対話的で深い学びの実現 (ミニマム授業スタイル作成・配付) 田村市共通テストの実施 田村チャレンジ塾開校 (国語・算数) オータムマスマティクスキャンプ ◇難関大学挑戦等の夢や希望の実現支援 <ul style="list-style-type: none"> 東大見学・体験学習 算数・数学ジュニアオリンピック、科学の甲子園ジュニア参加奨励 中学生数検3級以上検定料補助 	○田村市版ミニマム授業スタイルを研修会や学校訪問など折に触れて指導し、教員一人一人に児童が楽しいと思う授業のイメージを持たせてきたため各学校で意識して授業をするようになってきている。 △授業の中で教師が子どもの反応を待ちきれず、矢継ぎ早に問いかけてしまう状況が目立っている。 △学習内容の理解が早い児童生徒への適切な支援・指導が展開されていないため、学びが停滞している姿が散見される。 △今年度の田村市共通テストの結果、知識・技能を問う問題は昨年度の課題がそのまま解決されず今年度も課題として残った。思考力等を問う問題は、問われていることがイメージできない状況が続いている。 ○田村チャレンジ塾は子どもたちの可能性を伸ばすきっかけにもなっている。子どもたちは学びがっていることを実感した事業であった。特に、小学生段階からの事業展開の重要性を感じた。今後、さらに子どもたち一人一人の意識を高めるために積極的に参加を奨励する働きかけが必要である。 ○オータムマスマティクスキャンプには、小中学生のべ16人が参加し、算数・数学の難問にも取り組み、意欲を高めることができた。 ○東京大学見学・数学オリンピック・科学の甲子園への参加奨励は、子どもたちのより高みを目指す経験を積む場となった。今年度初めて県事業「科学の甲子園ジュニア」に中学生が参加したことは新たな一歩となった。 ○数学検定料を補助することで検定にチャレンジした生徒は、3級47人、準2級2人で、3級合格者は29人、準2級合格者は0人であった。	B	○東大10人構想という大きな目標に向かって一步一步着実に進んでいる。 ○授業者にとって、基本となる授業スタイルが提示されることは、自信をもって授業に臨めることに繋がる。 ○田村市共通テストの結果、知識・技能を問う問題は昨年度の課題が解決されず、思考力等を問う問題は、問われていることがイメージできないとの課題があるので各学校への指導を継続していくことが必要である。 ○田村チャレンジ塾という田村市独自の施策により、子どもたちの意欲を高めて可能性を伸ばすきっかけにもなっており、事業を継続しさらに深化発展させていくことを期待する。 ○オータムマスマティクスキャンプや東京大学見学・数学オリンピック、そして科学の甲子園への参加奨励は、より高みを目指す経験を積む場となっている。平均を底上げするとともに、伸びる子をより伸ばすという視点も大切である。 ○英検・数検の検定料補助など、チャレンジしやすい環境があり、ますます伸びることが期待できる。数学検定3級に47人、準2級に2人チャレンジし、3級合格者29人は大きな成果である。 ○子供たちの自学学習の習慣化をサポートすることが大切である。例えば、最初は5分間の取り組みから、次第に時間レンジを伸ばしていくようなものがあればよい。5分間で学習できるステップ学習のための教材作りは、教員の作問能力を高めることにもなる。	A
	(2) 保幼小中一貫教育の推進【基本】 ◇保幼小中一貫教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> 小中連携を生かした小学校専科指導 5-4制小中一貫カリキュラムの推進 「スタートカリキュラム」の実践 「はぐくみステップ」の活用 架け橋期カリキュラムの作成 	○中学校教員が小学生に授業をすることで小学生の実態を把握することができ、わかりやすい指導に向けて教材研究をすることができている。小学生にとっても学校段階の格差解消につながっていると小学校教員の評価もあった。 ○「スタートカリキュラム」や「はぐくみステップ」を活用しながらの「架け橋期カリキュラム」作成を進める中で、保育実践が充実してきており学力の基礎となる力が付いてきている。幼稚園・こども園職員と小学校教員との交流も盛んになり、意思疎通が図られている。 △幼稚園(こども園)・小学校・中学校それぞれの指導が充実するよう、さらに教職員間の交流を活発にさせ、幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の共通理解を図っていく必要がある。	A	○小学校・中学校の教員はそれぞれ本来に努力している。小・中学校教員の相互交流は大変有意義であり、今後も継続することが期待される。 ○「スタートカリキュラム」や「はぐくみステップ」を活用し「架け橋期カリキュラム」を進めていることは評価できる。幼稚園・こども園と小学校との相互理解にも有効である。 ○保幼小中一貫教育の推進については、かなり力を入れており評価できる。幼稚園・小学校・中学校の指導充実のための教職員間の交流は大切である。幼児期の終わりまでに育てたい10の姿の共通理解をさらに進めることを期待する。 ○保幼小中一貫という個の括りを越えた相互作用により子供一人一人の成長に対する気づきも生まれる時もある。とてもよいカリキュラムである。	A
	(3) 英語が使える人材育成【重点1】 ◇児童生徒の英会話力向上 <ul style="list-style-type: none"> ALTを活用した外国語授業の充実 セブ島での語学集中研修 サマーイングリッシュキャンプ 田村チャレンジ塾開校 (英語) たむらっ子の英会話力向上の支援 (English School Bus、英検3級以上検定料補助、ALTとの園児交流) 	○小・中学校ともにALTが英語の授業に常に入っている状態が継続されており、児童生徒にとってはネイティブスピーカーにより学ぶ環境が整備されて聞く力は向上している。 △話すことにはまだ消極的な児童生徒が多い。ALTには英語の時間以外の授業にも入れるよう学校に指導・助言している。 ○サマーイングリッシュキャンプ・田村チャレンジ塾では、楽しく英語に触れ英語により親しむ素地を培うことができた。英会話力向上のために行っている支援は、子供たちにとって身近なものとなってきており、意欲を持って取り組める雰囲気が高まっている。	A	○ALTが英語の授業に常駐し、児童がネイティブスピーカーによる生きた英語を学ぶ環境が整備されており、確実に聞く力が向上している。 ○外国語習得をする際に100%を求めがちだが、キーワードを聞き取れる、ワンワードでも意思を伝えられる程度を第一段階として小中学校で段階的に学べるような仕組みがあってもよい。 ○サマーイングリッシュキャンプ・田村チャレンジ塾で楽しく英語に触れることは、英会話力向上のために有効である。生きた英語をできるようにするため	A

令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価	外部評価		
基本 施策 1 学校 教育 の 充 実	(4)ICT教育推進【重点2】 ◇タブレット等ICT活用授業 ・ICT支援員派遣 ・メクビットの活用	○セブ島での語学集中研修は、英検3級以上取得者10名により実施され、研修受講者の英語力、特に話す力が飛躍的に向上した。また、外国の文化に触れることで視野が広がった。 ○1月15日現在、英語検定受検者は、3級49人、準2級19人、2級2人で、合格者は3級35人、準2級6人、2級1人であった。 ○ICT支援員の協力もあり、各学校のタブレット端末の活用が進んでいる。授業においては個別学習が容易にできるようになり、子どもたちの操作も円滑で学習意欲の向上につながっている。 ○文部科学省が推奨している問題演習等が容易にできる「メクビット」を必ず活用するよう指導・助言をしている。 △タブレットを活用するにあたっては、特にセキュリティについてトラブル等発生しないよう児童生徒に十分に説明する必要があり、教職員の細心の配慮の下、使用させる必要がある。 △各種学力調査のCBT化に対応するため、学年の発達段階や個に応じてタイピング能力の向上を図っていく必要がある。	A	にも継続することが求められる。 ○セブ島での語学集中研修で、受講者の話す力が飛躍的に向上したことは評価できる。 ○英語検定受検者に対する支援により多くの合格者ができたことは素晴らしい成果である。検定試験受験のための補助は、家庭にとっても大変助かる取組みであり、継続が求められる。 ○ICT教育においては、メディアリテラシーや情報リテラシーをしっかりと学ぶことが重要。各学校のタブレット端末の活用が進み、授業で個別学習ができる環境が整ってきて、児童生徒はタブレットを操作する、鉛筆でメモを取るその状況に合わせた使い方ができている。学習意欲が高まっている。 ○基礎基本の定着のためにも、問題演習「メクビット」を必ず活用するよう指導していることは評価できる。 ○トラブル等発生しないよう人権やセキュリティについて児童生徒に十分指導することを教職員に指導することが必要である。	A
	② 規範意識を養い、豊かな心と健やかな体を育成します (1)道徳教育の充実 ◇「特別の教科 道徳」授業の充実 ・道徳教育推進委員会の活性化 ・地域素材や人材の活用 ◇心や行動の指針の共有・実践 ・「心の道標(みちしるべ)」の啓発 ・「実践躬行5則」の実践 ・「田村っ子のルール10」の実践 ◇情操教育への支援 ・音楽グレートレッスン ・日本フィルハーモニー交響楽団演奏会 (2)読書活動の推進【重点5】 ◇読書意欲の向上 ・図書支援員配置による読書環境整備 ・中学生ビブリオバトル大会の開催	○道徳教育推進委員会を中心とした各学校の授業の充実に向け、モデル授業参観後に推進委員会を行った。具体的なイメージをもってそれぞれの学校で授業を進められるように各委員の意欲を高めることができた。 ○8/23に市内教職員の悉皆研修として田村市教育講演会を実施した。文部科学省の堀田竜次教科調査官を講師に迎え、学習指導要領の内容についての詳細な説明を受けた。具体的な事例の動画もあり、授業する教員にとっても授業のイメージをもちやすい講演となった。 ○心や行動の指針としての「心の道標(みちしるべ)」を校内の掲示等により常時児童生徒・保護者の目に触れるようにしている。「実践躬行5則」「ルール10」についても行動目標として学校だけでなく家庭においても具体的に教えることができ、生活の拠り所になってきている。 △学校運営協議会と共に、家庭への働きかけを強化していく必要がある。 ○プロの指導を受け、各学校の合唱・合奏のレベルは大きく向上した。日本フィルハーモニー交響楽団の演奏会も好評で、市文化センターがほぼ満員だった。 △プロの指導を受けるまでに基礎的な技能の向上については、可能な限り各学校で進めておくことより講師の指導の効果が見込まれる。 ○図書支援員が図書の整備をすることで児童生徒の図書利用がしやすくなっている。情報センターとして、授業の内容にも関連した利用がしやすくなっている。 ○中学生ビブリオバトル大会は、生徒の読	A A A B	○人格形成に重要な児童生徒の小中学校の時期に、各学校の道徳の授業の充実が極めて重要である。モデル授業参観は教職員に具体的な授業のイメージを高めるために有効である。 ○文部科学省教科調査官の講演に市内教職員が全員参加し、具体的な事例動画を通し授業のイメージを高められたことは大きな成果である。 ○心や行動の指針として、「実践躬行5則」「ルール10」を学校も家庭も実践するよう進めていることは、意義がある。子供、大人に関係なく心に留めて生活していれば「〇〇ハラスメント」などの言葉が無くなるくらいの良い目標である。 ○「三つ子の魂百まで」なので、特に小学校段階でしっかりした市民意識が育成できるよう取り組むことが必要である。また、家庭の果たす役割こそが大事なことで、保護者を含めた大人への周知及び理解が得られるよう情報発信・啓発活動に力を入れていく必要がある。 ○プロの指導を受けることができることは児童生徒の演奏力に大きな影響を与える。各学校の合唱・合奏のレベルが大きく向上したことは大きな成果である。 日本フィルハーモニー交響楽団とジョイントした船引中吹奏楽部員が堂々と生き生きと演奏され、市民のためにもよい事業であった。 ○図書支援員の活用で、児童生徒の図書利用がしやすくなり、情報センターとして、授業に利用しやすくなることは望ましい。	A A A B

令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

	施 策	内部評価	外部評価	
基本 施策 1 学校 教育 の 充 実	(校内ビブリオバトル支援)	<p>書意欲の喚起だけでなく表現力向上の一助となった。</p> <p>△活字に触れて思考し他と対話する経験を積ませていくためにも、読書をより多くの生徒に広げられるよう働きかけていく必要がある。</p> <p>△本を1ヶ月に読んだ冊数は小学校10.3冊(R5:8.2冊)、中学校2.3冊(R5:2.8冊)と小学校では増加し、中学校では減少している。また、本を1ヶ月に1冊以上読んだ児童生徒の割合は小学校98.5%(R5:98.0%)、中学校94.0%(R5:95.6%)と同様に中学校で減少している。各学校に配当されている図書費を計画的に活用して図書購入を進め、児童生徒の読書習慣の形成と読解力向上を図る指導・助言をする必要がある。</p>	<p>○中学生ビブリオバトル大会は、回を重ねるごとに益々面白みを増し、質疑応答も活発になっていく。生徒の読書意欲の喚起と表現力向上に大きく寄与している。読書をより多くの生徒に広げられるよう一層の指導が求められる。</p> <p>○本を1ヶ月に読んだ冊数が小学校では増加しているが、中学校では減少している。部活動が活発になれば、時間は限られているのである程度はやむを得ない。ただ、部活動等と関係する本も少なからずあるので、そのような本の情報を提供することで読書量が増え読書習慣が身につく可能性はある。</p> <p>○図書費を計画的に活用して図書購入を進め、児童生徒の読書習慣を身に付けられるよう工夫して指導することを期待する。</p>	
	(3)体力・運動能力の向上	<p>◇ 体力・運動能力向上策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力調査の実施・分析 ・田村地区小学校陸上競技大会の支援 ・陸上グレートレッスン 	<p>A</p> <p>○体力運動能力調査の分析を踏まえ、児童生徒の実態を把握し、各学校の体力向上推進計画に生かすことができた。各校とも体育の授業をはじめ学校の教育活動全体を通して体力向上に取り組む機運が高まっている。</p> <p>○小学校陸上競技大会は校長会主催で行っており70名を超える係員が必要であるが、教育委員会からも支援することで、円滑な大会運営に寄与できている。市内児童の活躍についても直接確認できる良い機会となっている。</p> <p>○陸上グレートレッスンは、小中学校の連携により、中学校教員の乗り入れ授業が展開され、小学生の競技能力の向上を図っている。</p> <p>○令和6年度全国体力・運動能力調査の結果から、運動能力面について、小学5年男子は、長座体前屈以外のすべてで全国平均を上回った。小学5年女子は、上体起こしが全国平均と同じで、その他、長座体前屈以外は全国平均を上回った。中学2年男子は、長座体前屈が全国平均と同じで、その他、握力、上体起こし、立ち幅とび、ハンドボール投げで全国平均を上回った。中学2年女子は、上体起こし、立ち幅とびが全国平均と同じで、その他、持久走、20mシャトルランで全国平均を上回った。小学生は長座体前屈に、中学生は反復横とび、50m走に課題が見られた。</p>	<p>A</p> <p>○体力運動能力調査の分析を踏まえ、児童生徒の実態を把握し、各学校の体力向上推進計画に生かしていることは評価できる。</p> <p>○小学校陸上競技大会が長く継続されており、児童の陸上競技の技能向上のみならず体力の向上にも大きく寄与している。円滑な大会運営ができており、教育委員会の支援の効果は大きい。</p> <p>○陸上グレートレッスンにより小学生の競技能力が向上しており、小中学校連携の成果でもありと考えられる。令和6年度全国体力・運動能力調査の結果で、全国平均を上回った種目が多かったことにもつながっており、各校・教育委員会の取組みの大きな成果である。</p> <p>○運動は、健康な体づくり、挑戦する意欲づくり、人生における楽しさづくりなどの面がある。指標的には体づくりに目がいきがちだが、評価の観点としてその他の諸点を含めることも必要である。</p> <p>○田村市出身の陸上部に属する高校生が市内の中学生の陸上練習に参加し、アドバイス等をしていたのを広報誌に載っていた。年齢の近い高校生と一緒に練習するのも効果的である。このような企画を実施すると競技力向上に効果的である。</p>
	(4)現代的諸課題の解決	<p>◇ 放射線・防災教育の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外部講師の活用 <p>◇ SDGsに係る指導機会の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関連指導の確実な実施 	<p>A</p> <p>○放射線・防災教育は専門的な知識が必要であり、外部講師を依頼して授業を行うことにより、児童生徒に発達段階に応じてわかりやすく伝えることができている。学校から問い合わせがあった場合には、講師の紹介をしている。</p> <p>○指導計画に学習内容とSDGsを関連付けて明記したことにより、授業の中で取り上げられ、意識化が図られている。</p>	<p>A</p> <p>○放射線・防災教育は、継続すべき福島県の教育の大切な課題である。専門的知見を持っている方の話は子供たちにとつて非常に有意義な体験となっている。わかりやすく大切なポイントを教えて頂く機会を今後も継続して設けていくことが必要である。</p> <p>○SDGsの教育についても未来に生きる児童生徒に積極的に指導することが必要である。</p>
	◇ 健康教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・肥満や齲蝕の解消・予防 ・給食センター栄養職員による食育の授業支援 ・個別的相談指導の充実 ・歯科・思春期保健教室の開催 	<p>B</p> <p>○各学校ごとに肥満、齲蝕の実態についてまとめ、歯科教室を計画的に開催したり個別の指導を継続したりして対策を立てて取り組んでいることから、一定の予防効果をあげている。</p> <p>○「肥満傾向児出現率」については、男子は、今年度、小学6年生から県平均を超える傾向があり、女子はその傾向が小学3年生から出現している。また、令和5年度と比較すると、男子は小学6年生、中学3年生以外で、女子は小学3年生と中学1、3年生以外で改善傾向がみられる。「う齲蝕患率」については、全国や県と比較すると高いが、減少傾向にある。</p> <p>△栄養職員による食育の授業で栄養面に特</p>	<p>A</p> <p>○放射線・防災教育は、継続すべき福島県の教育の大切な課題である。専門的知見を持っている方の話は子供たちにとつて非常に有意義な体験となっている。わかりやすく大切なポイントを教えて頂く機会を今後も継続して設けていくことが必要である。</p> <p>○SDGsの教育についても未来に生きる児童生徒に積極的に指導することが必要である。</p> <p>○歯科教室の計画的開催や個別などの継続指導により「う齲蝕患率」も減少傾向で予防効果が上がっており、継続が求められる。</p> <p>○健康教育における家庭・保護者の役割は非常に大きい。学校では、子供たちの実態把握と課題の解決方法の情報提供がメインとなることから、健康課題については学校にプラスして市全体の課題として取り組むことが必要である。</p> <p>○栄養職員による食育は、家庭の協力が不可欠なので、理解を深められるよう学校だよりや学級だよりで継続して啓発に努めていくことが必要である。</p>

令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+: 目標を大幅に上回る成果をあげた S: 目標を上回る成果をあげた A: おおむね目標を達成した B: 業務に支障はないが、目標は下回った C: 目標を大幅に下回った

	施 策	内部評価		外部評価
基本施策 1 学校教育の充実	<p>③ 個に応じた教育を推進します</p> <p>(1)特別支援教育の充実</p> <p>◇ 一人一人の教育的ニーズに応じた支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別支援教育支援員の適切な配置 個別の教育支援計画、個別の指導計画 教育支援委員会の適正開催 <p>◇ 「サポネット田村」運営の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びづくりへの訪問・相談支援 「サポネットファイル」の活用促進 <p>◇ 各種関係機関との連携強化</p> <ul style="list-style-type: none"> たむら支援学校との連携 各種事業所との情報交換 <p>◇ 就学前幼児への早期相談</p> <ul style="list-style-type: none"> こども未来課との情報共有 「すくすく教室」訪問 <p>◇ 高等学校段階までの切れ目のない支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 小・中・高切れ目のない個別の教育支援 	<p>化した専門的な内容をわかりやすく伝えられているが、食事の量や栄養の偏り、塩分濃度の調整など家庭との協力が不可欠である。健康面全体において家庭の協力が必要であり、各校とも学校だよりや個別のお知らせなどにより啓発に力を入れているが、生活習慣についてはなかなか改善できない状況もあるため、学校運営協議会と共に、家庭への働きかけを強化していく必要がある。</p> <p>○22名の特別支援教育支援員を配置していることで、学校では障害のある児童生徒への丁寧なかかわりができている。また、障害のある児童生徒一人一人の個別の教育支援計画並びに指導計画を作成していることから、教員のきめ細かな指導ができる体制が整備できている。</p> <p>○教育支援委員会を適正に開催し、特別支援学校入校及び特別支援学級入級にかかる審議が円滑に進められた。</p> <p>△個別の教育相談は各学校で適宜行われているが、できるだけ早期に進めるとともに必要に応じて医師の診察を受けることを念頭に置いた対応を幼稚園にも助言するとともに、保幼小間の情報共有を徹底していく必要がある。</p> <p>○5/29に開催した講演会には各学校・こども園から教職員が多数参加し、障害のあるなしにかかわらず効果的な指導の仕方について学んだ。普段の指導に生かすことのできる内容であった。</p> <p>○たむら支援学校や各種事業所との連携が円滑に進められ、障害の状況等の情報を共有して指導に生かすことができた。「サポネット田村」の組織が生かされている。</p> <p>○こども未来課とも情報共有し幼稚園やこども園と就学先学校との連携を円滑に進められた。また、「すくすく教室」への訪問は、就学にかかわる相談を進める上で効果的だった。</p> <p>△小・中・高切れ目のない個別の教育支援体制は整えられてはいるが、中学校卒業後の情報については詳細に把握できてはいない。今後、他課とも連携し、可能な方法で情報収集に努めたい。</p>	<p>A</p>	<p>○よく噛むことが食べすぎの防止になり、むし歯を治すことが肥満防止に効果的であることを認識させる指導がより一層求められる。</p> <p>○一人一人の児童生徒を大切にした教育実践に向け、本市の(22名)特別支援教育支援員配置は大きな成果をあげている。障害のある児童生徒一人一人の個別の教育支援計画並びに指導計画も作成され、きめ細かな支援が進められている。</p> <p>○本市は「サポネット田村」など特別支援教育において先進的な取り組みをしている自治体である。関連組織との連携を深めながら、適切な教育支援を継続していくことを期待する。</p> <p>○特別支援学校入校・特別支援学級入級に関しての審議は慎重に進めることが必要である。</p> <p>○講演会に各学校・こども園から教職員が多数参加し、効果的な指導について研修できたことで、特別支援教育への理解が一層進んでいる。日常の指導にもぜひ生かして頂くことを期待する。</p> <p>○「サポネット田村」の組織がますます生かされ活用されることが望まれる。</p> <p>○就学の心配をする相談者を待つのではなく、教育委員会からの「すくすく教室」への訪問は、円滑な就学に効果的である。</p> <p>○教職員・行政間の情報共有・情報交換は必要性大である。</p>
	<p>(2)実効ある生徒指導の推進</p> <p>◇ 学校生活への基盤づくり支援</p> <ul style="list-style-type: none"> Q-U検査の活用・訪問支援 	<p>○Q-Uテストの具体的な活用については、計画訪問時に学校の取組みを把握した。外部から講師を招いてテスト結果の分析を行い、日々の学級運営に生かしているという報告もあった。</p>	<p>A</p>	<p>○令和6年度の結果で「学級生活満足群」は全学年が全国平均を上回っており、保護者・地域の方々にとっても安心できる情報である。児童生徒の学級生活満足度調査は客観的に確認できると</p>

令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施策	内部評価	外部評価	
基本 施策 1 学校 教育 の 充 実	<p>◇ 不登校の未然防止と支援【重点4】</p> <ul style="list-style-type: none"> まごころ教室(学習・適応支援教室)を活用した不登校対応 心の教室相談員の配置 SC, SSW派遣事業の活用 段階的生徒指導訪問支援(関係機関の連携強化) <p>◇ いじめの未然防止と支援</p> <ul style="list-style-type: none"> いじめ定期調査の実施 いじめ早期解決支援 	<p>○令和6年度の結果では、「学級生活満足群」ほどの学年においても全国平均を上回り、「非承認群」「学校生活不満足群」については、どの学年においても全国平均を下回っている。また、学校生活意欲を見ると、小学校においては、全国と比較して、友達関係、学級の雰囲気が高く、中学校では「学習意欲」「教師との関係」「学級との関係」が全国平均を大きく上回っている。</p> <p>○年度初めの年1回の調査を生かし、教育活動が展開できている。成果については、数値的エビデンス、個別事例群、アンケート調査といった多様な方法で検証を実施している。</p> <p>○不登校児童生徒にとって、まごころ教室は学校以外の居場所の一つになっている。心の教室相談員・SC・SSWが一人一人に丁寧に寄り添って支援を続け、心の安定と学習への意欲を高める取組みにより家から出られなくなってしまうことの未然防止にもつながっている。</p> <p>△12月末現在の不登校数は、小学校が12名、中学校が38名であり、昨年度に比べ、小学校で15名減、中学校で5名増となっている。引き続き、関係機関と連携し、チーム対応を継続する必要がある。</p> <p>○いじめの定期調査では、令和6年度4月から10月までのいじめ認知件数は235件となっている。特に小学校で201件の減となっている。学校としていじめの早期発見、早期解決に向け、市教委としても支援を継続していく。</p>	<p>この点から今後も継続していくことが必要である。</p> <p>B ○まごころ教室は学校以外の居場所の一つになっており、設置したことは大きな成果である。心の教室相談員・SC・SSWが悩みを持つ児童生徒一人一人に寄り添い心の安定と学習への意欲を高めている。</p> <p>○昨年度に比べ、小学校で15名減、中学校で5名増。引き続き努力が必要である。</p> <p>○いじめ調査では、昨年度と比較して182件の減、特に小学校で201件の減は好ましい結果であり評価できる。今後もいじめの早期発見、早期解決に向け、市教委と学校の連携で努力していくことが望まれる。</p> <p>○「いじめはダメ」の観点からだけではなく、各人には各人の個性があってその個性を尊重することが当たり前です。よと、短時間でいいので日常的に語りかけていくことが大事である。</p>
	<p>(3)小学校キャリア教育推進</p> <p>◇ 小学校キャリア教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 県立中学校の資料収集・指導 小学校段階の進路指導・キャリア教育 	<p>○教育委員会が校長会議・教頭研修会をとおして指導することで、小学校における進路指導を積極的に進めようとする意欲が高まってきた。すべての児童の学習習慣の確立に向けた契機になっている。</p> <p>○市教育委員会として、希望する小学6年生を対象に、ウインター・チャレンジ・キャンプを3回開催し、つまずきやすい内容の克服や、難易度の高い問題へ挑戦させながら、目標に向けた学びの機会を設けることができた。</p>	<p>A ○キャリア教育は、児童生徒に自分の人生をどのように創っていくかを考えさせる非常に重要なものである。さまざまな体験や人との出会いを創出して、自分の未来を考えさせる機会を提供していくことが望まれる。</p> <p>○ウインター・チャレンジ・キャンプの3回開催で、難易度の高い問題への挑戦の機会を持つことができていた。その子の能力を最大限発揮できるように今後も継続していくことが期待される。</p>
	<p>④ 地域と共にある学校教育を実現します</p> <p>(1)開かれた学校づくり</p> <p>◇ 教育活動の積極的な公開</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校便りやホームページの活用及び授業公開 <p>◇ 学校評価による学校運営の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価の公開 学校関係者評価の公開 <p>(2)コミュニティ・スクール制度の充実</p> <p>【基本】</p> <p>◇ 学校運営協議会の充実</p>	<p>○各学校のホームページ数が増加し、積極的に発信している効果が出てきている。授業公開や授業参観のほか、研究授業にも学校運営協議会委員に来ていただくよう案内する学校も増えてきた。</p> <p>○学校関係者評価が確実に遂行され、各学校で評価結果の公開も行っている。今後は、学校評価をいただく学校運営協議会委員に対して、学校の取組みを見ていただく機会を更に増やし、日常的に教育活動を参観できる体制整備や働きかけが必要である。</p> <p>○学校または中学校区単位の学校運営協議会は定着し、計画的に会議を開催するようになってきた。</p>	<p>A ○各学校の教育活動充実のためにも、地域や保護者の理解と協力が不可欠である。学校のホームページ数が増えるなど充実しているが、授業公開や授業参観、学校だより等活用してさらなる工夫など努力することを期待する。</p> <p>○学校関係者評価が実施され、評価結果の公開もなされていることは、開かれた学校の実現に大きく寄与している。</p> <p>○学校運営協議会委員が学校の取組みを日常的に参観することで、大きな力強い学校応援団になる。今後も継続することを期待する。</p> <p>B ○学校運営協議会が定着し会議を開催するようになったことは評価できる。より多くの人に参加してほしいとの意見</p>

令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価	外部評価		
基本 施策 1 学 校 教 育 の 充 実	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会委員の研修 学校運営協議会の協議内容の共有の場の設定 <p>(3)地域と連携したキャリア教育の充実</p> <p style="text-align: right;">【基本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 郷土に貢献できる人材育成 <ul style="list-style-type: none"> ・こども議会 ・中学生T2プロジェクト ◇ 総合的な学習の時間による地域学習 <ul style="list-style-type: none"> ・地域素材による地域理解 ・地域人材活用によるキャリア教育 	<p>OGSマイスターを招聘し、講演会を開催したことで学校運営協議会委員としての役割について学ぶ機会を提供できた。</p> <p>△協議回数を多くしたり協議内容を共有したりするなど、効果的な協議会について今後検討していく必要がある。特に、学校運営協議会合同研修会を開催し、文部科学大臣表彰を受けた常葉中学校区の取組みを共有する機会を設けたことにより、他地区の協議会を充実される方向性を示すことはできた。</p> <p>○小・中学生が議員となって具体的に質問内容を考え、議場で質問することで議会についてのより実的な学びとなった。議会をより身近なものとして今後関心をもって情報を得るようになることが期待できる。市当局にとっても、児童生徒の生の声を聴く良い機会になっている。</p> <p>○T2プロジェクトは、中学生が自分たちの住んでいる田村市の未来にかかわる正解のない問題について、創造力を働かせて考える貴重な機会となった。また、カリフォルニア大学教授との英語による対話では生きた英語を使う貴重な経験となった。さらに、財務省や日本銀行で活躍している方から、経験談を聞く機会を設けたことにより、将来への夢や希望を膨らませる生徒の姿が見られた。</p> <p>○地域学習を各校で教育課程に位置付けて実践することでキャリア教育の一環として定着し、児童生徒の身近な生活環境を知る機会になっている。また、地域と共にある学校づくりにもつながっている。</p>	A	<p>があるので、本協議会に係る講演会等については時期・時間帯についても検討のほか、広報についても一層の工夫が必要である。また、コミュニティスクールの内容・頻度も重要になる。</p> <p>○文部科学大臣表彰を受けた常葉中学校区の取組みを学ぶ学校運営協議会合同研修会の開催は、有意義である。今後の協議会を充実するために大きく役立つと思われる。</p> <p>○小・中学生議員が質問内容を考え、議場で質問することで極めて貴重な経験を積むことができる。各学校のリーダーとして今後も活躍することが期待される。民主主義のありようを考えさせる良い取り組みである。傍聴者として小・中学生がもう少し参加できる働きかけに工夫が必要である。より多くの子もたちが民主主義における議会の重要性を学べる機会として今後も活用していくことが望まれる。</p> <p>○T2プロジェクトは、カリフォルニア大学教授との英語による対話や財務省や日本銀行で活躍している方の経験談を聞く機会など本当に得難い中学生の貴重な機会となったと思われる。</p>	A
	<p>(4)特色ある教育に向けた</p> <p style="text-align: right;">家庭・地域との連携【基本】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 地域ボランティアの積極的活用 <ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働本部事業との連携 ・学習支援ボランティアの活用 ◇ 危機管理情報伝達体制の整備 <ul style="list-style-type: none"> ・緊急時「eメッセージ」メール配信システム ・情報セキュリティポリシーの策定 	<p>○各学校が、地域学校協働本部(教育活動地域協議会)に、学習活動をより充実させるためのボランティアを依頼する体制は確立された。学校からの要請にできるだけ応じられるようコーディネーターを中心として地域の受け入れ態勢も充実してきている。</p> <p>△地域によりボランティアを依頼する頻度には差がある。協議会ごとに協議を活発化することで、より地域の実態に応じた教育活動が実践されていくことが期待できる。また、学校運営協議会との役割の確認や連携強化も必要である。</p> <p>○メール配信システムが各学校とも整備され、迅速な連絡手段として保護者にも好評である。</p> <p>△セキュリティポリシーについては、ICT技術の発達が著しいということを念頭において常にアップデートしていく必要がある。</p>	A	<p>○各学校が、ボランティア依頼の体制が確立されるようになってきている。学校からの要請に応じられるようコーディネーターを中心として地域の受け入れ態勢も整いつつあることは望ましい。</p> <p>○ボランティアは需要と供給のアンバランスがあり、高齢化が進む地方の郡部においては、要員確保がなかなか難しい。ボランティアに協力いただける分野は限られているので、万が一、想定数を確保できなかったとしても評価を下げる必要はない。</p> <p>○メール配信システムが各学校とも整備され、迅速な連絡手段として有効活用されており、今後も有効な情報伝達手段として大いに活用されることが期待される。</p>	A
⑤ 教職員の資質向上を図ります					
	<p>(1)教職員の指導力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ◇ 教育力向上のための教員研修体制の拡充 <ul style="list-style-type: none"> ・田村市学力向上ラウンドテーブルの開催 ・教員短期派遣研修 ・専門研修派遣事業の推進 ・教育講演会の開催(学力調査官等招聘) 	<p>○教員短期派遣研修、専門研修派遣事業は、市内教員の意識改革に効果を上げている。先進的な取組みを学ぶ良い機会となり、派遣教員自身の研鑽の下、授業改善が進んでいる。</p> <p>○文部科学省学力調査官による教育講演会において、学習指導要領の趣旨を直接聞いたり授業モデルの動画を視聴することが</p>	A	<p>○本市の事業の「教員短期派遣研修」「専門研修派遣事業」は教員の意識改革や教員としての資質向上に大きく寄与している。</p> <p>○文部科学省学力調査官による教育講演会は、学習指導要領の趣旨・授業モデルの理解など市内の教員が授業を考える大変素晴らしい機会となった。</p>	A

令和6年度事業実施結果・評価 (夢を実現する力を育てる学校教育の充実)【基本】、【重点】は市総合計画との関連を示す

S+:目標を大幅に上回る成果をあげた S:目標を上回る成果をあげた A:おおむね目標を達成した B:業務に支障はないが、目標は下回った C:目標を大幅に下回った

施 策		内部評価	外部評価					
基本 施策 1 学校 教育 の 充 実	<ul style="list-style-type: none"> 計画及び要請訪問の実施 	<p>でき、それぞれの教員が自身の授業を振り返る良い機会となった。授業改善に取り組む意欲を高める講演となった。</p> <p>○計画及び要請訪問において市教委指導主事が直接授業参観して教員を指導することで、指導内容の捉え方や児童生徒へのかかわり方など授業者自身の指導力を高めることができた。特に初任者は深く教材研究をし、日々の授業を進める上で自信を深める良い機会となった。</p> <p>△時間外勤務が多くなったり教員の負担感が増すようになったりしないよう、管理職のコーディネートが必要であることを折に触れて助言していく必要がある。</p> <p>○学校教育推進委員会による授業研究会を行ったことにより、委員自身の指導力を磨き校内のリーダーとしての自覚を高めることができた。教科調査官の指導をいただき質の高い授業の在り方を学ぶ機会ともなった。</p> <p>○共通テストの作成により、教師が児童にどのような力をつけさせたいかを確認することができ、日々の授業において、着地点を明確にした授業づくりへの意識を高めることができた。</p> <p>○学校の課題に適切に対応するためには教員一人一人の力量を高める必要があることから、市教委が主催して行っている研修の役割は大きい。</p> <p>△不登校やいじめ、特別支援教育やICT教育など日々求められる専門性を磨くことができるよう研修内容をさらに充実させていく必要がある。</p>	<p>○計画及び要請訪問において市教委指導主事が直接授業参観して教員を指導することで、ベテラン・中堅はもちろん、特に初任者は授業改善に役立つ機会となった。</p> <p>○教員の勤務の効率化と負担軽減について、適切な勤務時間の中で行われるよう管理職者の指導が必要である。</p> <p>○作問能力が上がると教材理解が進む。経験の浅い教員向けに作問のための研修を取り入れることで「なぜその問いかけなのか」「その問いかけで子供たちが解答を導き出せるのか」という視点をもち、授業のより一層の充実が図られることを期待する。</p> <p>○学校教育推進委員会が校内のリーダーとしての自覚を高めるとともに、教科調査官の指導をうけ高い授業の在り方を学ぶ機会になったことは委員のためにも役立った。今後に期待したい。</p> <p>○学校の課題解決には、教員一人一人の力量を高めることが不可欠である。</p> <p>○不登校やいじめ、特別支援教育やICT教育など喫緊の課題解決に向けて、市教委の研修充実に期待したい。</p>					
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 学力向上推進会議の活性化 学校教育指導委員会による授業研究(教科調査官等招聘) 田村市共通テストの作成と分析と改善策提案 					<p>○各学校において相談体制が整備されており、教員一人一人が不安や悩みがあってもストレスを抱え込むことなく勤務できている。</p> <p>○服務倫理対策委員会において危機意識を共有できている、不祥事防止に向け互いに声を掛け合う日常的な姿が随所に見られる。</p> <p>△服務倫理対策委員会が形骸化することのないよう、引き続き、教職員一人ひとりの当事者意識を高めていく工夫が必要である。</p>	<p>A ○学校が児童生徒そして先生方が安心して生活できることが学校としての最優先事項である。相談体制の整備・不安や悩みへの対応ができるよう継続していく必要がある。</p> <p>○服務倫理対策委員会において危機意識を共有し、不祥事防止に向けた姿がみられているが、より一層の倫理意識を高める努力を継続していく必要がある。</p> <p>○過度な指導とならないようにすることにも意識を高める必要がある。悩みを抱える教職員の発見や早いケアが大切であり、このことが結果的に不祥事の減少につながる。また、人間関係がギスギスしない職場環境づくりが必要である。</p>	A
	<ul style="list-style-type: none"> ◇ 専門研修の充実 不登校・いじめ問題対策研修会 特別支援教育担当者会 幼保小中教諭等研修会 ICT教育研修会(文科省GIGAスクール推進課招聘) 常勤講師研修会 							
<ul style="list-style-type: none"> (2)教職員服務倫理の確立と働き方改革 ◇ 不祥事根絶 校内相談体制の構築 服務倫理委員会の充実 	<p>○勤務の適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> 部活動の在り方検討委員会の継続開催 校務支援ソフトの活用促進・共有 勤務実態の把握と勤務適正化への指導助言 							